

一人じゃない。 いつも支えてくれる人がいる。

柏教会 星野京子さん

星野京子さんは、平成19年、32歳のときに結婚。なかなか子宝に恵まれないことから、体外受精を三度試みたが望む結果は得られなかった。藁にもすがる思いで養子縁組を斡旋する団体から説明を受けたが、「自分は実の親のように愛情を注げるのだろうか」と不安にられる。そんな気持ちを察した夫は「君のおかげで幸せな夫婦生活を築けている。だから、子どもを迎え入れてもきっと幸せになれる」と言ってくれた。いつも親身にしてくれる仏教の仲間たちからも「一人で育てようと思わないで。いつでも助けにいくから」と応援してくれたことに勇気と安心を得て、赤ちゃんを迎え入れた。これからは夫婦でたくさんの愛情を子どもに注いでいきたいと語る星野さんにはもう一つ願いがある。それは、地域で子育てをしているママさんたちと心を通わせ、苦楽をともにしながら子育てをしていくこと。それが仏教の教えにある「人さまの役に立つ」ことにつながるから。



善い縁を結ぶために

私たちは日々、さまざまなご縁のなかで生きています。縁によって生かされている、といつてもいいでしょう。人との出会い、ものごととの出会い、そして家族との会話の一つも、そのときのタイミングが生みだす縁によるものです。

ところで、私たちはどうして善い縁を望むのでしょうか。漠然と「そのほうが幸せだから」と思う人も多いでしょうが、仏の教えからすると、私たちは仏性ぶつじょうそのものとして生まれてきたからです。それが、善い縁を結びたいと願う根源こんげん的な理由です。

すべてが調和した円満な状態を、私たちの心はつねに求めているのです。

そのような私たちが、つい顔をのぞかせる自分勝手な思いに負けないで、出会う人やものごとをいつでも善い縁にしていけるポイントが、そのご縁が何を教えているのかを「学ぶ」姿勢と、そのことで気づいた点を「省かえりみる」ことです。仏は、あらゆるかたちで教えを説き、真理を示していますから、人やできごととの出会いのなかにあるお論まじしをキャッチすることで、すべてが善縁ぜん縁となるのです。

立正佼成会